図書館報

聖隷クリストファー大学

第15号　2017.4

「図書館へ行こう！」（荒川靖子）…… 1
歴史の深層・見えないものに目を注ぐ（永井英司）…… 3
「なぜ大学で学ぶの？」（柴本　勇）…… 4
この一冊 …… 6
メディカルオンラインを活用しよう！ …… 9
図書館ホームページ新機能のお知らせ …… 12

「図書館へ行こう！」

図書館長
看護学部看護学科　教授　荒川 靖子

キーワードはアクティブ・ラーニング！中央教育審議会は、平成24年に「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」を取りまとめています。答申に添えられた用語集ではアクティブ・ラーニングは、「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である」と説明されています。

聖隷クリストファー大学でも現在、全学をあげてアクティブ・ラーニングの推進に取り組んでいます。授業や実習では、さまざまな工夫をこらして学生の主体的な学修活動を活性化させる試みが始まっています。これから学生は、授業や実習で示された課題にむかって自分なりに情報を収集し、自分の考えをもって学修に参画する積極的な学びの姿勢が求められていきます。そこで、聖隷クリストファー大学図書館としては、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業／実習を展開する先生方、自主的な学修に取り組む学生のみなさんの後押しをすべく使い勝手の

良い図書館を目指していきたいと考えています。

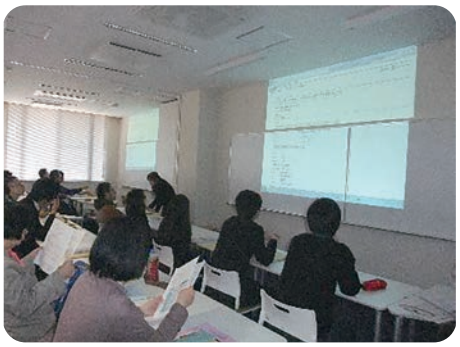
2013年に5号館に移転・拡張した図書館には、ラーニングコモンズやグループ学習室を備え学生の自主的な学びのための場所を提供しています。定期試験

や国家試験の時期には特に人気が高まる学修の場です。図書購入に際しては、学生からの購入希望図書や利用頻度の多い図書を重点的に購入して配架していますので新着図書フェアや新着図書コーナーにも注目してみてください。また、一部の図書館図書（？）は、図書館に足を運ばなくても利用できるようになりました。2016年度からメディカルオンラインのリモートアクセスという機能が導入され、実習先や自宅から電子書籍を開いて勉強したり、詳しい薬の効能を調べることができるようになりました。

この機能は、特にリハビリテーション学部の学生さんによく利用されているようで月平均1000件を超えるアクセスがあります。どんな本がラインナップされているか、どんなふうに活用できそうか、是非一度ページを開いてみてください。

3年前からは、大学院生が学生の文献探しやレポートのまとめ方等の相談に乗ってくれる図書館サポーターという制度も導入されています。「図書館サポーター」というロゴの入ったベストを着て、ラーニングコモンズや書架の間で作業している大学院生の姿を見かけたことはありませんか？図書館サポーターが活動している時間帯は、図書館の掲示やホームページで確認することができます。的確で効率の良い文献探しを目指すなら図書館サポーターの力を借りてみるのも良さそうです。

みなさんは図書館の視聴覚教材を利用されたことがありますか？視聴覚教材については、既存教材のDVD化をすすめたり、適宜、新しい版への更新も行っています。教員が選定した視聴覚教材の中には、感じること、考えることがたくさん盛り込まれた映画やドキュメンタリーもあります。グループ学習室にはテレビも備えられていますので図書館内でグループで視聴することも可能です。



図書館の所蔵物は、ホームページから検索してその所在や利用状況を確認することができますが、図書館に足を踏み入れていつもとは違った場所にある書架にも目を向けてみてください。聖隷の長い歴史の中で積み重ねられてきたたくさんの本達が保健・医療・福祉の枠を超えたこの世界のたくさんの側面を見せてくれています。いろいろな本を直接手にとって中身をのぞいてみて知の好奇心の世界を広げていっていただければと思っています。アクティブ・ラーニングに取り組む中で、こんな図書館があれば、こんな図書館の使い方があればという利用者の方々のご意見をいただきながら足繁く通っていただける図書館を目指していきたいと思っています。

歴史の深層・見えないものに目を注ぐ

社会福祉学部介護福祉学科　教授　永井 英司

遠藤周作の歴史小説『沈黙：1966年』が今日再び脚光を浴びている。マーティン・スコセッシ監督によってリメイクされた『沈黙 −サイレンス−』が米タイム誌の2016年The Top 10 Best Moviesに選定されたことに起因しているのだろうか。日本では2017年1月から上映されると報じられている。

学生にキリスト教と聞いて何をイメージするかと尋ねたところ、「伴天連！キリシタン！」という答えが返ってきた。意外であったが歴史の授業で学んだと言う。伴天連とは16世紀キリスト教を伝えるために日本にやって来た神父たちのことであり、キリシタンとはクリスチャンのことである。

他には「踏絵」や「キリシタン禁制の高札」などの言葉が思い浮かぶのではないだろうか。日本におけるキリシタンの歴史は、まさに迫害と殉教そのものであったことが窺えよう。

それでは、キリシタンたちは信仰のゆえに血を流し、殉教の死を遂げていっただけなのであろうか。そうではない。彼らは宣教師たちの指導のもとで学校（セミナリョ、コレジオ）や病院を建て、社会事業を展開するなど信仰の実を生み出していったのである。

しかしながら、当時の為政者たちは政治における統一的支配の構築を掲げ、度々禁教令を発しては、キリスト教の進展を阻み続けていった。キリスト教伝来を16世紀半ばと仮定すれば、19世紀後半に至るまでの300年近く迫害は繰り返され、キリシタンは信仰を守るために潜伏の道を辿らざるを得なくなっていった。

明治新政府が誕生し欧米諸国から開港を求められていた時のことである。近代化を推し進めようと奔走していた日本において、信じ難い事実が発覚する。キリシタン禁制下にあった1867年、長崎の浦上で密かに信仰を守り続けていたキリシタンの存在が明らかとなった。

数世紀に及ぶ禁教令の下、キリシタンは存在しないとされていた日本において信仰が連綿と継承されていた奇跡に欧米諸国の人々は驚き喜んだ。しかし、為政者たちはこのキリシタンに対し容赦するどころか弾圧し、世界に類を見ないほどの迫害を加え、棄教を迫っていったのである。

苛酷を極めた「浦上四番崩れ」と称される迫害の実態は、一斉に欧米諸国に報じられ世界が知るところとなった。キリシタン迫害への抗議は義憤の大波となって新政府に押し寄せた。旧態依然とした政府の対応は露呈し、批判の矢面に立たされていった。

近代化を押し進め、欧米諸国と対等な外交関係を構築したい新政府は、交渉を繰り返す中で、キリシタンへの迫害を止め、信教の自由を認めることが条約締結の前提条件であることを知らされるのであった。内憂外患のただ中に立たされた新政府は、遂にキリシタン政策の舵を大きく切らざるを得なくなっていった。

高木慶子著『高木仙右衛門に関する研究』2013年には、「〜キリシタンの存在と信仰によって、キリシタン禁制撤去が可能になった〜」とある。また、「浦上四番崩れ」というキリシタン迫害の只中にあって「〜社会的に弱い立場の仙右衛門が、時の権力者に屈することなく、神の恩恵に支えられて自己の信仰を守り通したことは、日本人としてキリストの教え

の正しさを証しただけでなく、その雄々しい姿は信仰ある諸外国の人びとの心を動かし、日本に信仰の自由をもたらす動機をも作った〜」とも述べておられる。

迫害と殉教の歴史を辿っただけのように映るキリシタンの存在と信仰は、明治新政府をして、信教の自由と言う新しい価値性を明治憲法の条文に刻み込ませていったことを見逃してはならない。

およそ3世紀に亘る迫害の中を生き続けたキリシタンの信仰の証しを一人の信仰者、前述の高木仙右衛門の生き様に見ることができる。迫害の中を生き抜き浦上への帰村を果した仙右衛門は、自分の土地建物を伝道、教育、福祉活動等の拠点とするために手放し捧げるのであった。

キリシタンの歴史、その深層に目を注ぐ時、想像を絶する迫害の中にも人知を超えた神の先導があったことが明らかになってくる。聖隷学園の歴史も然りである。一握りの群れの誕生は、神の経綸以外のなにものでもなかった。預言者の言葉にあるとおり、神の計画は虚しく消え去ることはなく必ず良き実を結ぶのである。

読書に関する言葉に「眼光紙背に徹す」がある。この言葉から学びに対する姿勢を読み取ることはできないだろうか。聖書に「見えるものではなく、見えないものに目を注ぐ。Ⅱコリント4：18」とある。本学で学ぶ一人一人が神によって導かれている、という事実を見出すことができた時、学びへの謙遜が生まれ何を学ぶべきかが明確になってくると考える。学びの究極がここにあるように思う。

「なぜ大学で学ぶの？」

リハビリテーション学部言語聴覚学科　教授　柴本 勇

これは、大学受験をしようとしている兄に向かって父が投げかけたことばです。思い返せば、父も酷なことを言ったものだと思います。兄は、大学で学ぶ内容を丁寧に説明します。しかし、父は「最高学府で素晴らしい内容を学ぶことができるのは当たり前。内容ではなくその意義や意味を知りたい…」と。当時12歳の私には、兄がものすごく高いレベルの難題を解いているようで、大学に進学するとは怖いことだと幼心ながら思いました。

あれから三十数年。「最高学府」ということばを聞く機会は減りました。大学進学率は、随分高くなりました。大学を卒業しても自身が希望する職に就けない人がいる時代になりました。自身が大学教員になりました。当時とは様々なことが変化している

中で、改めて「なぜ大学で学ぶの？」という問いを考えてみたいと思います。

聖隷クリストファー大学には、保健医療福祉の資格取得を目指す人が多いです。資格取得は4年間の集大成のように見えます。ただ、資格取得は専修学校でも同様にできます。資格取得だけを目的とすれば、大学で学修しなくともよいかも知れません。時間もお金も節約できるかもしれません。しかし教員という立場となった今、資格取得のみを大学への入学目的とする学生さんの声を聞くと少し寂しい気持ちになるかもしれません。なぜなら、大学の存在は資格取得のみとは思えないからです。

大学には、「未来の人を育む」、「新たなる知の創造」、「社会への貢献」の3つの大きな使命があります。すなわち大学には、「教育」、「研究」、「社会貢献」の活動が不可欠です。教育は、未来永遠に学び続け発展していける人材の育成です。これは、単に専門職者の育成に留まらず、幅広い教養、強靭な体力、安定した心など人としての幅を得て欲しいと願います。そのためには、課内活動・課外活動を通じて、教員・同級生・先輩・後輩等と共に、自身で考え応用する力を蓄えることが大学でできることだと思います。研究は、『真実の探求』、『真理の追究』です。知識の蓄積とは異なるので、「Learning」ではありません。研究を英語では「research」と言いますが、「search」（探す）を「re」（再び）＝何度も何度も探す＝探求　という意味であると言えます。研究は知識を持ったものが、ある事象の真髄に挑む永遠の「旅」です。いつ終わりが来るのか？　そもそも終わりがあるのか？　この事象には本当に真理があるのか？　誰にもわからない永遠の旅でしょう。そこに「探求のロマン」があり、「やりがい」があります。こういう活動を通じて、新たなる知が創造されていきます。そして大学がもつ人材や知は、将来芽吹く種です。この種を蒔き、社会から水や日光をもらって大きな葉を繁らせ、花を咲かせ、実をつける。その実を分け合い、生命が続く。こういう貢献を通じて、また人が育ち、知が生まれる。大変大切な活動の循環です。こう考えてくると、昔の人が言った「最高学府」の意味が少し理解できるような気もします。「学問」への真摯なる態度、その発展を願って活動をする場所が「大学」なのかも知れません。その一翼を担う図書館の存在は、とても大きく大切なものです。

昔、国外留学したとき、大学の中心に7階建ての大きな図書館がありました。その意味は、「大学の中心は学問でありそのシンボルとして図書館があるんだ」そんな風に教えられた気がします。実際に365日24時間開館し、多くの学生・教職員・地域住民が毎日毎日図書館を利用していました。図書館の中では、館内をとことん詳しく知る司書さん、館内を常に巡回し様々な質問や相談にのってくれるサポーターの皆さんが学ぶ者の味方として活動くださいました。ことばもままならない留学生の私であっても惜しみなくサポートをし、私の学修を支え続けてくださいました。国は違えど、大学が大切にすることは同じなのかも知れません。「学問」、「知的好奇心の探究」。大学で活動するものを常に意識しておくと、自身の軸がぶれない気がします。聖隷クリストファー大学図書館にも、館内にサポーターさんがおられます。多くの皆さんが共に活動し個々の成長へと繋がることを期待しています。

筆を置くにあたって、「図書館をうまく活用すること」＝「学問を究めること」＝「大学で学ぶこと」と大手を振って言える学生さんが増えることを期待しています。これからも互いにがんばりましょう。

この一冊

本学教員からのお勧めの一冊

（五十音順）

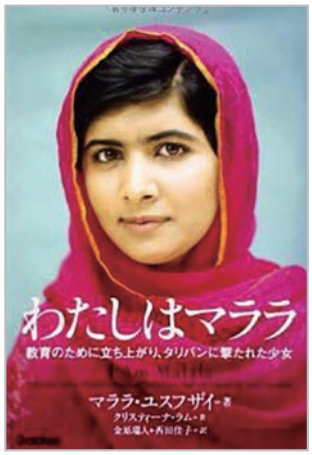
『ポジティブ・ワード』　メンタリスト DaiGo 著　日本文芸社

普段、書籍を最後まで読みきれない私でも、気になった項目から気軽に読むことができます。本書には、私たちがポジティブに行動できるようになるヒントが書かれており、「これは良いな！」と感じた言葉を参考に行動すると良いと思います。

その中でも特に、「努力は自分を裏切らないが、努力を裏切るのは、いつも自分自身だ」（226ページ）という言葉が印象に残りました。これには、「ライセンシング効果」が関係しているのですが、詳細を知りたい方は、是非、本書をお読みください。

リハビリテーション学部作業療法学科　准教授　泉 良太

『わたしはマララ』
マララ・ユスフザイ，クリスティーナ・ラム著　金原瑞人，西田佳子訳
学研パブリッシング出版



『わたしはマララ』は、人権活動をしている少女に起こった衝撃的な本当のお話です。マララ・ユスフザイはタリバンに命を狙われながらも「女性も平等に教育を受ける権利がある」と主張します。この行為はパキスタンの文化に反する行為ですが、彼女は教育の権利を訴え続けます。15歳のある日、スクールバスで下校途中に、タリバンに銃で頭部を撃たれ生死を彷徨います。奇跡的に命をとりとめ、その後も果敢に「女性の教育の権利」を訴え続けています。幼い彼女の教育に対する情熱と、タリバンによる攻撃にも屈せず、母国の女性のために立ち向かう勇気に感動する自伝書です。現代の学生にこそ読んでほしい一冊です。

リハビリテーション学部理学療法学科　助教　坂本 飛鳥

『左足をとりもどすまで』　オリバー・サックス著　金沢泰子訳　晶文社

著者は英国出身の脳神経科医で、アメリカでの臨床の傍ら医学的エッセイを多数出版。日本でも『レナードの朝』を始め、全色盲の世界、手話の言語的意味、失認・失行等の多数の訳本がある。

その先生がノルウェイの山中で牛に出会い、逃げまどい転び左足を損傷。病院で応急処置を受けた翌朝、看護師から「足をベットにあげて」といわれても自分の足がどこにあるか分からない。その状況から自分の左足の感覚を取り戻すまでを描いたエッセイである。解剖学、神経学が駆使され、感覚認知の詳細な記述とともに、退院後の回復期ホームでのリハビリなど英国の医療事情も描かれている。学生さんに一読をお勧めしたい。

看護学部看護学科　教授　式守 晴子

『まんがでわかるD・カーネギーの「人を動かす」「道は開ける」』
nev イラスト、藤屋伸二監修　宝島社

今回、私が紹介させていただくものは、D・カーネギーの『人を動かす』『道は開ける』です。D・カーネギーは有名で、両著書も大変有名です。最近まんがになり、例えも日本にあわせ読みやすくなりました。芸者修行を主人公がしながら、いろいろな視点で社会経験を積み、成長する方法が書かれています。

看護学部看護学科　助教　柴田 めぐみ

『子どもへのまなざし』　佐々木正美著　福音館書店

子どもが健やかに育つ上で最も基盤となるもの、それは自他への信頼感です。しかし、この信頼感が得られず、苦しんでいる子ども、お母さん･お父さんはたくさん居ます。保育･教育現場の先生たちも同様です。いつも心を砕き、暗中模索されています。

「甘やかしすぎて悪いことはない。」

「子供は自分で動けない分、大人が聞いてあげないといけない。」

このような一言で救われるお母さんや先生たちは、きっと多いことでしょう。幼児教育など子どもに携わる皆さんには必読と思える書です。目から鱗の連続であり、心温まる一冊と言えます。

社会福祉学部こども教育福祉学科　教授　鈴木 光男

『朝の歓び』　宮本輝著　講談社

「明るく振る舞えて、感謝する心を忘れない人間は、きっと勝つだろうな。いっとき、地獄でのたうつような事態が生じても、その地獄のなかで勝つ。そんな気がするよ。」作中の主人公が発した言葉である。ストーリーについては呆れるほど記憶にない。改めて手に取ろうと考えたこともない。実家の書庫で二十数年間、おとなしく眠っているはずである。ただ、「地獄のなかで勝ちたい」そう願った青春時代の記憶だけは、今も色褪せることがない。

社会福祉学部社会福祉学科　助教　村上 武敏

本学大学院生からのお勧めの一冊

『空飛ぶ広報室』　有川浩著　幻冬舎

「なりたいものになれなくても、別の何かになれる。」

誰が悪いわけでもないのに、突然の不運はやってきます。しかし、思い通りにならなかった時に、夢に破れた時に、やりたくない仕事をやらなければならない時に、どう動くかで人間の真価は決まるのだそうです。色々なものを失って、もがいて、またかき集めて、そうやってまた一歩踏み出そうと前向きになれる一冊です。

また、最終章「あの日の松島」も、東日本大震災を淡々と描きながらも多くのメッセージを残してくれる一節です。

看護学研究科（博士前期課程）院生
2015-2016年度図書館サポーター　　堀元 美紗子

メディカルオンラインを活用しよう！

メディカルオンラインは、医学文献の全文を検索・閲覧できる電子ジャーナルをはじめ、電子書籍、医薬品、医療機器等の情報を得ることができるサイトです。

2016年度から、**リモートアクセス**により、**実習先や自宅等の学外から**も利用できるようになりました。図書館ホームページやメディカルオンラインのサイトから、**IDとパスワードを入力**すると、大学内と同様に利用できます。（学内者のみ）

★メディカルオンラインでは、**「ホーム」「文献」「電子書籍」「くすり」「プロダクト」**等、タブを選択し、それぞれの検索ができます。

文献

●学術専門誌・学会誌の文献検索、全文やアブストラクトを閲覧・ダウンロードできます。

検索結果画面

①**「キーワード」「タイトル（雑誌名）」「分野」「学会・出版社名」**の**タブ**を選んで検索

②**「キーワード」**で検索

③**「関連キーワード」**で絞り込める

④**「発行年」「雑誌名」「文献種別」**等での絞り込み

⑤**「全文」「アブストラクト」**がダウンロードできる

くすり

●医療用薬・一般薬の添付文書情報と、関連文献が閲覧できます。

①**「薬 効」「疾 患」「製 薬 会 社」**の**タブ**を選んで検索

②**「キーワード」**で検索

③**「関連キーワード」**で絞り込める

④**「製薬会社」「薬価」**での絞り込み

⑤**「商品詳細画面」**を表示すると、**「くすりの基本情報」「警告・禁忌の表示」**「添付文書（HTML版）」、「添付文書の主要文献」**「文献」**「関連書籍」**「添付文書」**等の閲覧ができる

プロダクト

●医療機器・医療材料・医療サービスなどの情報と、関連文献が閲覧できます。

「カテゴリ」「診療科目」「企業」の**タブ**を選んで検索し**「製品詳細画面」**で、**「プロダクトの基本情報」「文献」「関連書籍」「製品詳細」**等の閲覧ができる

電子書籍

●電子書籍を閲覧できます。

検索結果画面

① **「契約書籍一覧」「タイトル(電子書籍名)」「シリーズ」「分野」「出版社」**の**タブ**を選んで検索

② **「キーワード」**で電子書籍を検索

③ **「関連キーワード」**で絞り込める

④ **「発行年」**での絞り込み

⑤ **「書籍詳細画面」**を表示

書籍詳細画面

① 電子書籍を**最初から閲覧**できる

② 電子書籍を**章ごとに閲覧**

③ **キーワード検索**や**書込み**（ペン・付箋）、**書き込んだ画面の印刷**ができる

図書館ホームページ新機能のお知らせ

2016 年 12 月のバージョンアップにより、図書館ホームページへ新しい機能が加わりました。

1 図書館ホームページが、自分の好きなデザイン(テーマ)を選択し利用できます。

①マイライブラリ（学内者限定）にログイン後、「図書館」をクリックしホームに戻ります。

②「個人設定」からデザインを選択します。

シアン

ブラウン

ライトグリーン

ピンク

2 検索結果の詳細画面に「関連した新着資料」や「近くにある資料」があれば表示されます。また、「関連資料を探す」から関連情報にリンクできるようになりました。

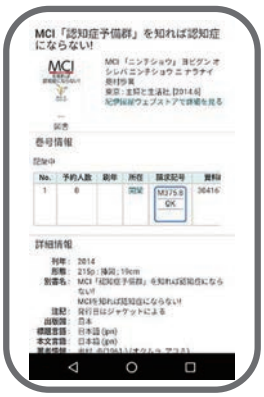
3 自然文検索で検索ができるようになりました。

※自然文検索：話し言葉のような文章を入力し、検索すること

4 スマートフォン画面が、小画面で見やすく、操作しやすくなりました。

・表示アイテムごとに、画面サイズに応じて見やすく表示

・表の列が多すぎる場合、水平スクロールバーが現れる



図書館は公共の場です。マナーを守ってお互い気持よく利用しましょう。

図書館報　第15号／発行・聖隷クリストファー大学図書館／2017年4月1日

〒433-8558　静岡県浜松市北区三方原町3453/TEL：053-439-1416/FAX：053-414-1146

E-mail：cl-library@seirei.ac.jp　図書館ホームページURL：http://lib.seirei.ac.jp/library/